

「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」(第 4 回)感想等

1 報告書プロットについて、提案等があれば、お書きください。(なければ、記入しなくても大丈夫です。)

委員	<p>□先生方から「福生市の強み・特性」という範疇で、ICT教育、英語教育、日本語学級等を挙げられていた。この点については同意です。</p> <p>□別の切り口から見れば</p> <p>① ICTによる理解度を深掘りする教育</p> <p>② 地域の特性である地球的広がりのある多様性の受容力を涵養する教育</p> <p>③ 一人の児童生徒も取り残さない伴走型のコミュニケーション力をつける教育</p> <p>という児童生徒の側からの視点も大事なのではないでしょうか</p> <p>□福生市の強み・特性の共通認識も整理することが求められるのではないのでしょうか</p>
委員	<p>特に意見ございません。</p> <p>第4回会議の最後に出た何点かの校長先生方からのご指摘に適切に対応されることを期待いたします。</p>
委員	<p>第1章</p> <p>4 福生市の教育課題</p> <p>(1) 学力の向上</p> <p>イ 英語教育の推進 現状と課題を述べる。</p> <p>(2) 支援が必要な児童・生徒への対応</p> <p>日本語学級を加える。</p> <p>第2章 理想の福生市立学校</p> <p>第1章を受けて、今後目指したい、実現したい福生市立学校の姿を述べる。</p> <p>これからの教育には、切れ目のない一貫した教育の重要性が高まっていること等を述べる。そして、小中一貫校の必要性について触れる。(3章でも小中一貫校の必要性や期待があるので、そこでの書きぶりや整合性を図る。)</p>
委員	<p>検討委員会でも発言しましたが、福生市の強みをもう少し強調する項目でも良いと感じました。特にICT分野は、GIGAスクール構想の具現化にむけた先行的な取組が行われています。回答の通り、「市学校の現状」の中でもよいですが、新たに項立てしてもよいのではないのでしょうか。福生市の教育の強みを理解・自覚していることは大切だと感じます。</p>
委員	<p>① 第1章 4 (2) 支援が必要な児童・生徒への対応 に「エ 通級による指導及び特別支援学級の現状と課題」を入れて、不登校以外の特別な支援が必要な児童・生徒にも触れておく</p> <p>② 第1章で各学校での様々な課題が明らかになってきているので、第2章ではその課題を解決するための方策(方向性)を示す。第2章 「2 福生市立小中学校の課題解決の方向性」「(1) 下位項目」そこで、小中一貫校にしたときのメリットを示す。「3 小中一貫校の効果」課題解決のための方向性は、小中一貫教育にすることにより合理的に解決が図れる。「4 福生市立小中学校における小中一貫校の導入の必要性」「(1) 下位項目」</p>
委員	<p>「福生市立学校の現状について」の中で4. 福生市の教育課題とありますが、課題という言葉には、改善・改良を要するもののイメージのみが強くあります。</p> <p>しかし、新しい学校のかたちを提案していくにあたって、福生ならではの特強みとなるものも提示する必要はないのでしょうか。小中一貫教育に子どもたちの明るい未来を感じさせる前向きな改革感が表現されていると良いと感じています。</p> <p>第2章の中で、理想の学校像を挙げるにあたり、先に挙げた課題を解決し、福生ならではの利点を生かした教育をしていくには「小中一貫校」である必要があるということでこの言葉が出てきてくれているならば、第三章につながりやすいと思います。(すでにそのようにお考えかとも思いますが、プロットだけでは展開が確定できずすみません。)</p> <p>第三章1は一般的な語句説明に当たるかと思いますが、2、3は「福生市の」ことであることが分かるよう、表題の差別化は必要ないのでしょうか。</p>

2 第4回の感想等について、お書きください。

委員	<p>第4回検討委員会は残る委員会開催があと1回となるなかで、まとめに入りました。そのこと事態は止むを得ませんが、委員会の中での意見があるように先ず小中一貫教育の必要性や期待を当事者である教員、保護者+児童・生徒、地域の方に丁寧な説明をし、その理解度が福生市の小中一貫校の円滑な定着につながると考えます。</p> <p>小中一貫校の導入にあたっては具体的なスケジュールに基づき中長期的な計画性を含め推進をお願いしたい。委員会で意見を述べさせていただいた通り、分離型を最終形とするのではなく近い将来一体型一貫校への移行をすることで地域=公共施設との共存を実現していただきたい。</p> <p>行政の公共施設の課題：公共施設の4割が学校教育系で筑後50年以上の状況からの小中学校の建築・再配置と教育委員会の課題：小中一貫校の推進は、やはり横ぐしをさせた施策とすることで将来良い結果をもたらすとされます。</p> <p>市内小中10校にコミュニティスクールが設置され、それぞれ特徴のある取組みをし各学校においてCSがなくてはならない組織になってきており地域総がかりの教育を進めるうえでCS活動の安定継続が求められる。現CS委員として活動伝承への努力を惜みず、今後CS活動が一層活発になることを願います</p> <p>6つの視点の議論では小中一貫教育・小中一貫校の効果・良い点を掘り下げるだけでなく、課題・懸案なことを既実施校の先行事例から学び対応策を蓄積してことが今後、教員、保護者、児童・生徒の安心感に繋がると考えます。</p>
委員	<p>活発な意見交換ができて大変勉強になりました。なぜ小中一貫校が時代の要請として必要なのか、それは近未来を展望しながらこの数年の間に、部分的にでも取り組める分野は何かなどイメージが少しできてきたと感じました。</p>
委員	<p>先日の福生市総合教育型、東京女子体育大学の小林教授の講演に共感。「子どもをど真ん中に置いて、観念の罫からの脱却」、「八勝七敗でも前進することが大事」など。既存の考え方に固執しがちな発想から、まず自ら殻を破ってみることが必要かも知れない。それゆえ、教育面からすれば義務教育学校、一体型を理想としたい。</p> <p>また、コミュニティ・スクールの考え方に基づいた、学校を核に地域と共に学べる公民館・図書館など施設などを含めて町会自治会など地域防災を加味した考えも必要かと思う。そのため、福生市の都市計画、街づくりの大胆な発想の転換も視野に入れたらどうか。狭小な土地ゆえ限界があるなら、高層による複合型施設も視野に入れたい。</p>
委員	<p>福生の現状(少子化と校舎老朽化等)からも、今後、どのような形の小中一貫校の方向性が良いのか(理想も含め)…子どもたちの未来の為に検討を重ねていく貴重な時間であると改めて感じました。その限られた時間の中、テーマの理解を深めて、その時の思いを上手く言葉で伝えられるようでありたいとも思いました。その方向性が明確になった時、入学していく子どもたちの保護者等から小中一貫と聞いて『実際に何が変わるのか』を聞かれた時等、私自身もしっかりと情報発信できるよう共有理解を深めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>一貫教育に関しては、誰しもが不安や期待を持っていると思います。条件、状態が揃ってからではなく、まずはできることから始めてみるのも良いと思います。例えばクラブ活動の交流。小学校のクラブ活動を把握して学区の中学生や教諭がサポート。中学校の部活を小学校の指導者がサポート。等</p>

委員	<p>第4回委員会より明らかにフェーズが変わってきています。ふっさっ子たちの将来のために、理想だけを語る事ができた議論の場から、現在置かれている現実環境を認識したうえで理想に近づけていくための議論に切り替わってきています。そんな中、委員の皆さんがわからないことをわからない、不安なことを不安だと素直に発言できたことはとても意義のあることだと思います。私はとてもいいメンバーに恵まれた、いい会であると実感しています。実現できることとできないことが当然出てくると思うのですが、最後まで皆さんと真剣に議論に参加させていただきたいと改めて思い直した次第です。</p>
委員	<p>施設のことがあるが、福生市は、小中一貫校を進めていく方向性を持ち、連続した切れ目のない系統的な教育とともに、異年齢での活動や地域と関わる教育活動等を通して、社会の作り手となるために必要な力及び自己肯定感を高めていく教育を実現していくことを期待する。そして、将来、社会の中で自分の力を発揮し、自身の自己実現を図るとともに、社会・地域に貢献する人材の育成を目指していくようにしたい。</p>
委員	<p>各委員のご発言を伺いながら、子供たちの良さ、特性が発揮できる取組として縦割りなど、異学年を意識することが大切だと思いました。上の学年が、下の学年へのリーダーシップを発揮したりお世話をしたり、また、下の学年が自然に上の学年の子供たちの良さを継承したり、学んだりしていくスタイルが、小中一貫教育の中で取り入れられたら、児童・生徒に主体性・自発性の素地が育っていくと感じました。</p>
委員	<p>今後の保護者や地域への説明については、段階的に丁寧な説明が必要。その中で、実際に小・中一貫実践校の生の声（メリット等）が聞けると、保護者や地域の方の理解も進むのではないかと。</p> <p>今後は、福生市全体の小中一貫について検討する全体会と各学校区で検討する分科会に分けて進めていけるとよい（分科会の時間が保障されるとよい）。</p>
委員	<p>分離型の小中一貫教育の在り方について検討を進める際、すでに先行実施している地域の事例に学ぶことは、大変参考になると思われる。メリットとデメリットを分析し、いかに福生市では課題を克服できるのかを検討することが重要である。また、先行実施している小中一貫校を視察したり、教員・保護者・地域の方等からお話を聞いたりすると、より具体的なイメージを共有しながら、検討できると思われる。</p>
委員	<p>施設一体型の小中一貫校となることが理想ではあるが、既存の施設を活用した分離型でも、小中一貫校として行実施することは様々なメリットが考えられると感じた。</p> <p>「合理的配慮の共通理解及び円滑な引継ぎ」、「環境の変化に弱い児童が、場や人間関係に慣れていきやすい。」、「特別支援学級の一貫したカリキュラム作り」、「各学校の特色を残しつつ、新たな教育活動が展開できる。」など</p>
委員	<p>以前、委員長からお時間をいただいて小中一貫校の実践例を紹介させていただきましたが、今回の皆様の御発言を伺いながら、あの実践例は既に過去のものであって、これからの福生の学校の在り方を協議していく中では、今だからこそ発想できる新しい取組を構想していきたいものと改めて感じました。武蔵村山市の小中一貫校ができた当時は、一人一台端末もなければ、「働き方改革」などという言葉もありませんでした。まさに「令和における」福生の学校の在り方について、より充実した夢のある協議をしていけたら素敵だなと感じました。</p>
委員	<p>小中一貫校になることで、今までと何が違うのか、メリットは何か、何をめざしているのかを整理していきたい。最近パッと見て、全容をつかみやすいキャッチーな伝え方も重要。その為には、柱を絞って分かりやすくし、福生市の皆さんに「これはいいぞ」と理解して協力していただけるようにすることが重要だと思いました。</p>
委員	<p>「人間関係の課題」、「進路選択」については、小学校卒業時に他学区中学校への進学を柔軟に認めることが必要だと思います。それほど希望者は多くないと想定しますが、個人が人間関係をリセットするチャンスを維持することは大切だと思います。</p> <p>小中9年間で「目指す生徒像」を中学校区ごとに明確にしたうえで、小学校ごとの「目指す児童像」を定めることにより、各発達段階における具体的な手立てについての一貫性が増すのではないかと感じます。</p> <p>C S委員会は中学校区ごとに定期的に合同開催を行う中で意見交換を行い、「目指す生徒像」について共有することが必要だと思います。</p> <p>実施した小中一貫教育に関する活動については、教育課程に位置付けることにより継続しやすくなるのではないかと感じます。</p> <p>部活動については、すべて福生市合同とするという方法もあるかと思っています。小学生の加入も認めたり、小中学校の施設を使用したりすることにより、施設の有効活用や指導者不足、少子化等に対応し、なおかつ中学校ごとの差が解消されるメリットがあると考えられます。</p> <p>いずれは、さまざまな公共施設を複合した施設一体型の小中一貫教育が理想であろうと感じました。</p>
委員	<p>(施設形態について) 将来、隣接型や一体型の一貫校を想定する場合は、地域の方々が集う施設と一体化（または隣接）した学校を作るべきと考えます。そうすることで保護者や地域住民の方々と物理的な距離も近くなり学校運営に参加・参画しやすくなると考えます。</p> <p>(学校規模について) 多様な人間関係を体験する、子ども同士が切磋琢磨することは社会性を培う上で重要と考えます。中学校の場合、やはり学年4～5学級程度の規模が適切と考えます。</p> <p>(小中一貫教育を進めるにあたって) 現場の教員が自ら課題を洗い出し取り組むところから始める形が良いと考えます。小中の教員が、目的を共有し協力して課題解決に取り組み、成果を実感できればおのずと連携は深まっていくと思います。校区ごとでそうした課題を洗い出し取り組むべきと考えます。</p> <p>※ 新たな施設になるまでの間、現在の学校施設を使用していくことになります。児童・生徒が日々生活する現在の教室環境や使用する高額備品等について、向こう20年程度を見通して、必要な修繕や高額備品の更新等をそれぞれの学校の要望に基づき着実に進めていただきたいと思います。【再掲】</p>
委員	<p>今回は、体調不良のため欠席させていただき、大変心苦しく思っております。</p> <p>第4回の検討会で、かなり前進したとお聞きしていますが、私は改めて9年間のスパンで教育課程を考えた連続性のある小中一貫教育は、より意図的・継続的に福生の子どもたちへの将来への期待や願いがこめられ、義務教育終了段階において身に付けさせたい力や実現したい姿の具体化を図る点で有効であると思っています。</p> <p>また、【地域を同じ】とする観点からも、小中のコミュニティ・スクールの合同での活動（挨拶運動・防災訓練・自然観察・地域清掃等）も同様に推進して行ける点でも、小中一貫教育は期待できると思います。</p> <p>三中学区の校内の活動としては、今年は3年ぶりに、「部活体験」ということで、6年生を本校に招き、「部活動体験」も実現させたいと思っています。</p>